

53 大阪医蹟めぐりガイド(大阪市内版)の作成(第2報)

竹中 裕昭

竹中医院

【目的】2011年(平成23年)、第28回日本医学会総会(東日本大震災のため縮小開催)において、参加者が自由散策のために利用できる「東京医蹟巡りガイド」がWeb上で配信された。一方、筆者の知る限り、大阪に関するそのような資料はなく、適塾など歴史教科書に登場するような有名な医蹟ですら、その場所をご存知ない方が多く、まして、それ以外の医蹟に関しては、ほとんどその存在すら知られていないのが実状である。

そこで今回、「大阪医蹟めぐりガイド(大阪市内版)」を作成し、大阪の観光振興や大阪の魅力を紹介する一助となることを、本研究の目的とする。

【方法】対象：大阪市内の医蹟

手段：①インターネットを通して大阪の医学史の概略を把握した

②文献による詳細調査を行った

③現地訪問による調査を行った

④大阪府立大学21世紀科学研究機構大阪検定客員研究員ゼミナールにおいてディスカッションを行った

⑤2013年度大阪府医師会医学会総会にてディスカッションを行った(第1報)

【結果】当初、ピックアップした大阪市内の医蹟36箇所のうち、医学的価値が比較的高く、かつ観光スポットともなりうる医蹟を、大阪府立大学ゼミナールにおけるディスカッションや2013年度大阪府医師会医学会総会を通して20箇所に絞り込み、アクセスポイント、または大阪国際会議場、大阪国際交流センターからのアクセスを意識し、以下の3つのモデルコースを作成した。

①「伝説の時代の医蹟を訪ねる」(地下鉄堺筋線・京阪本線「北浜」・京阪中之島線「なにわ橋」発、少彦名神社、大国主神社、安倍晴明神社、四天王寺、愛染堂、地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽丘」着)

②「赤十字精神の芽生えから名医誕生時代の医蹟を訪ねる」(地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」・京阪中之島線「大江橋」発、中央公会堂前(合水堂跡)、小楠公義戦跡碑、太閤下水、狸坂大明神、太平寺、地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽丘」着)

③「蘭学ブーム時代から近代医学誕生時代の医蹟を訪ねる」(大阪国際会議場発、中天游邸跡、伏屋素狄顕彰碑(阿弥陀池和光寺)、難波島跡、橋本宗吉絲漢堂跡、北御堂、除痘館発祥の地、除痘館記念資料館、適塾、大阪府医学校・大阪病院跡(大村益次郎卿殉難報告之碑)、浪華仮病院跡、大阪市営バス「大阪駅前」上本町六丁目「あべの橋」・大阪国際交流センター着)

なお、コース選定に当たっては、交通の便の他、時代背景別となることを意識した。

【考察】20箇所以外にも適塾発祥の地(瓦町適塾)や大坂人体解剖発祥の地を挙げたかったのだが、適塾発祥の地に関しては、浪速名医所附医家名鑑の記載では「蘭学 津村東之町 緒方洪庵」とあり、適塾発祥の地があったと思われる当時の津村東之町は、心齋橋筋と御堂筋の間の瓦町で、現在の瓦町4丁目と比定される。一方、適塾門下生、串戸瑞軒や武谷祐之の記述からは、同地は津村別院(北御堂)の北西で、御堂筋の瓦町通りと備後町通りの中間あたり、あるいはその西側で相生橋に近い位置とも推定され、適塾発祥の地は一箇所に特定できなかった。

また、大坂で最初の解剖は、寛政8年(1796年)2月18日、上総飯野藩(保科家)の侍医、宮崎或が大坂の合掌洲において行い、「三之助解剖図」を著わしたとされている。合掌洲は旧・月正島(大阪市浪速区)というのが通説であるが、月正島のどこで行われたのかは定かではない。また、元々月正島と1つの島で、後に大坂の解剖のメッカとなる旧・難波島(大阪市大正区)の今木刑場で行われたという説もあり、大坂人体解剖発祥の地も一箇所に特定できなかった。

今後、検証を重ね、将来的には適塾発祥の地や大坂人体解剖発祥の地を医蹟めぐりガイドに掲載したい。

引用文献

梅溪 昇. 緒方洪庵と適塾. 大阪：大阪大学出版会；1996. p.73-74

芝 哲夫. 適塾の謎. 大阪：大阪大学出版会；2005. p.19-21